

第六十二回 帝國議會

手形法案委員會議錄(速)第一回

付託議案

手形法案(政府提出、貴族院送付)

身元保證ニ關スル法律案(一松定吉君外四名提出)

利息制限法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

刑事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

行政執行法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

計量士法案(一松定吉君外四名提出)

出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外四名提出)

度量衡法中改正法律案(一松定吉君外四名提出)

計量士法案(一松定吉君外四名提出)

出子又ハ庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案(一松定吉君外四名提出)

稅務代理人法制定ニ關スル建議案(中井一夫君提出)

稅務代理人法制定ニ關スル建議案(中井一夫君提出)

昭和七年六月十一日(土曜日)午後一時
四十分開議

出席委員左ノ如シ

會議

(一松定吉君外五名提出)、計量士法案
(一松定吉君外四名提出)、度量衡法中
改正法律案(一松定吉君外四名提出)、計理士法中改正ニ關スル建議案(中井
一夫君提出)及稅務代理人法制定ニ關
スル建議案(中井一夫君提出)ノ審査ヲ本委員ニ付託セラレタリ
出席國務大臣左ノ如シ手形ノ流通スル國ニ於ケル手形法規ノ
差異ヨリ生ズル不便ヲ除キマシテ、國
際通商關係ヲ一層確實敏速ナラシメン
ガ爲ニ、是等ノ法規ヲ國際的ニ統一シ
ヨウツスル企テハ、近世歐洲ニ於テ盛
ニナツテ參リマシテ、明治四十五年ノ和委員長 藏園三四郎君
理事 松田 正一君
中野勇治郎君 鳩山 秀夫君
金井 正夫君 太田 正孝君
内藤 正剛君 清瀬 一郎君
出席政府委員左ノ如シ

出席國務大臣左ノ如シ

手形ノ流通スル國ニ於ケル手形法規統一萬國
會議ニ於キマシテハ、爲替手形、約束手
形ノ統一規則及是ガ施行ヲ約スル條約
ガ成立ツタノデアリマスケレドモ、世界附屬書ノ手形統一法ヲ、自國語ニ依リ各
自ノ領域内ニ施行スルコトヲ約スト云フ
コトニナツテ居リマスカラ、此締約國タ
ルガ爲ニハ、自國語ニ依ル手形統一法ヲ
國內法トシテ有スル必要ガアルノデア
リマス、而モ此統一法ハ、前ニ述べマシ
タ「ヘーベ」ノ統一規則ヲ大體踏襲致シ
マシテ、多少ノ修正ヲ加ヘテ成立シタモ
ノデアリマシテ、多年各國ノ學者實際家
ノ間ニ於テモ、研究論議セラレテ來タ所同月十日委員春名成章君及佐々木平次
郎君辭付ニ付其ノ補闕トシテ倉元要一
君及金井正夫君ヲ議長ニ於テ選定セリ
同月十日身元保證ニ關スル法律案(一
松定吉君外四名提出)、利息制限法中改
正法律案(一松定吉君外四名提出)、刑
事訴訟法中改正法律案(一松定吉君外
四名提出)、行政執行法中改正法律案
(一松定吉君外四名提出)、嫡出子又ハ
庶子ニ非サル子ノ名稱ニ關スル法律案
○小山國務大臣 手形法案ニ付キマシ司法省條約局長 松田 道一君
司法政務次官 八並 武治君
司法參與官 岩本 武助君
外務省條約局長 松田 道一君
司法參與官 岩本 武助君
出席政府委員左ノ如シ手形法案(政府提出、貴族院送付)
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
○藏園委員長 ソレデハ是ヨリ手形
案ノ委員會ヲ開會致シマス、先づ國務
大臣ノ御説明ヲ求メタイト思ヒマス
一ノ手形及小切手ニ關スル法律統形法制統一問題ヲ取扱フコトニナリマ
シテ、著々其準備ヲ進メマシテ、昭和五
年五月ヨリ六月ニ亘ツテ、瑞西「ジュネ
ーヴ」ニ手形及小切手ニ關スル法律統

ル立場ニアルト思フノデアリマス、吾
吾特別委員會ノ委員トシテモ、非常ナ
重大責任ヲ負ハサレテ居ル者デアリマス
コトヲ自覺致シテ居ル者デアリマス
ガ、果シテ然ラバ何ヨリ彼ヨリ、先ヅ此
法案ノ由ツテ來リシ原因デアル、一昨年
ノ六月七日ニ我ガ全權ガ調印セラレタ
ル、此統一法ニ關スル條約文ヲ具サニ
審査致サナケレバ、ドウシテモ此手形
法、本案提案ニナッテ居ル法律ノ審議ニ
入ルコトハ、吾々特別委員トシテハ甚
ダ輕率ナルヤリ方デアッテ、又國民ニ對
スル責任上當然斯クナケレバナラスト
思フノデアリマス、御説明ニモアリマ
シタ如ク、是ハ既ニ法制審議會ノ議ニ
付シテアルト云フコトデ、法制審議會
ノ委員ノ人ニ聽イテ見ルト、參考記錄
トシテ御配付ヲ受ケタ條約ノ原文、英
佛語デ記載シテアル所ノ原文ノ假譯文
ト云フモノガ、法制審議會デハ極祕ト
シテ配付ニナックト云フコトデアリマ
スガ、ソレハ無論サウデアラウト思フ、
一々委員ガ翻譯シテ見ルコトハ、中々
忙シイ、時ニハムヅカシイト思フノデ
アリマス、ソコデ此特別委員會ノ委員
ニ、斯ウ云フ形バカリノ原文ヲ御渡シ
イノデアリマスカラ、其法制審議會ヘ
渡サレタト同様ナ假譯文ヲ、速ニ此委
員ニ御配付ニ相成ツテ、篤トソレヲ拜見

○長島政府委員 假譯文ノコトダケ申
上ダマスガ、ソレハ恰度只今持合セヲ
持ツテ居リマスノデ、差上ダマス、實ハ
是ハ樞密院ニ御諮詢ニナラヌ前ニハ、
絶對ニ此譯文ハ外へ出サナイコトニナ
ヅテ居リマスサウデアリマスガ、併シ附
屬書ヲ一應御審議ヲ願フ譯デアリマス
カラ、極ク祕密書類トシテ御配付ヲ致
シタイト思ヒマス、是ハ別段ドウデモ
宜イコトデアリマスガ、法制審議會ノ
方へハ、條約ノ全文ノ假譯文ハ廻シテ
居リマセヌ、極ク僅カノ、必要ナ所ダケ
解ヲ願ヒタインデアリマス
○原委員 條約文ハ原文ヲ作成シタ時
ト云フモノガ、法制審議會デハ極祕ト
シテ配付ニナックト云フコトデアリマ
スガ、ソレハ無論サウデアラウト思フ、
一々委員ガ翻譯シテ見ルコトハ、中々
忙シイ、時ニハムヅカシイト思フノデ
アリマス、ソコデ此特別委員會ノ委員
ニ、斯ウ云フ形バカリノ原文ヲ御渡シ
イノデアリマスカラ、其法制審議會ヘ
渡サレタト同様ナ假譯文ヲ、速ニ此委
員ニ御配付ニ相成ツテ、篤トソレヲ拜見

○長島政府委員 今御配付致シマス
○小山國務大臣 原君ノ御尋ネニ對シ
テ御答致シマス、本會議ニ於テモ説明
致シマシタヤウニ、締約國タル各國ハ、
何レモ此條約ヲ國內法トシテ施行セネ
ばナラナイコトニナッテ居リマスカラ、
豫メ國內法ヲ制定シテ置ク必要ガアル
モノハ、作成ヲシテ、其日付ニ調印スル
ガ、ヤハリ締結ト云フコトニナルモノデ
ヤアリマセヌデスカ、私共ハヤハリ原
文ニ調印シタ時ガ條約締結ノ日ト心得
テ居ルノデスガ、サウデハナイノデス
カ、大シタ問題デヤナイデスケレドモ
後三箇月間ハ調印スルコトガ出來ルト
云フコトニナッテ居リマス、デアリマス
カラ其期間内ニ日本ガ調印ヲシタト云
フコトニナッテ居リマス

○松田政府委員 チヨット今ノ原君ノ
モノハ、作成ヲシテ、其日付ニ調印スル
ガ普通デアリマスガ、多數國ノ條約ニ
ナイノデスケレドモ、今御説明ニナッタ
形法案ヲ議會ニ提出スル必要ガアル譯
デアリマス、ソレカラ御批准ノ奏請ヲ
於キマシテハ、或作成シタ日以後ニ、一
定ノ期間ヲ置キマシテ、調印ノ期間ト
シテカラ私共ハ更ニ提案ノ各法條ニ
向ツテ審議ヲ進メタイト思フノデアリ
マス、先ヅ此假譯文ハ何時頃御渡シヲ
願フコトガ出來マセウカ、ソレヲ一ツ
時カラ九十日內ニ效力ヲ生ズト云フコ
トニナッテ居ルノデアリマスカラ、ソレ
シテカラ私共ハ更ニ提案ノ各法條ニ
シナイ中ニ議會ニ提出シタノハドウ云
法トシテ此法律ヲ實施スル手續ハ、國內
マデニ國內法ヲ實施スル手續ハ、國內
合ハナイ譯ニナルノデアリマス、ソレ
は此條約ハ、七箇國ガ批准ヲシマシタ
ガ、此條約ハ、七箇國ガ批准ヲシマシタ
マコトニナルノデアリマシテ、普通此
御尋ネ致シテ置キマス

○原委員 其點ハ大シタ重要問題デハ
ナイノデスケレドモ、今御説明ニナッタ
第三條ノ規定ヲ見ルト、千九百三十年

九月六日ト云フノハ、國際聯盟ノ何レ
ノ聯盟國デモ、又何レノ非聯盟國ノ爲
ニモ署名セラレルコトガ出來ルト云
フ、「其ポシビリティー」ヲ規定シテ居
ルダケデ、日本ノ全權ガ此條約ニ調印
ヲ致シタト云フ此本文作成、ソレハ六
月七日ニ出來テ居ルト思フノデアリマ
スガ、サウデハナイノデスカ、日本全權
ガ本條約文——三條ヲ含ム此條約文ニ
署名ヲ致シタ其日デスネ

○松田政府委員 本條約ハ作成ガ六月
七日「ジユネーヴ」ニ於テ本書一ヲ作成
ストアリマシテ、日本ガ調印致シマシ
タノハ矢張九月五日デアリマシテ、其
作成後三箇月間ハ調印ガ出來ルト云フ
コトノ規定ノ下ニ、實際ノ調印ハ九月
五日ト云フコトニ御諒承ヲ願ヒタイノ
デアリマス

○原委員 ソレカラ是ハ私ガ後ニ……
○藏園委員長 一寸待ツテ下サイ、只今
ハ参考書ノ取寄セニ關スル發言トシテ
許シテアルノデアリマスカラ、質問ハ
マダ後ニシタイト思ヒマスガドウデスカ
○原委員 ソレハ宜シイノデスガ今ソ
レニ關聯シタ問題デスカラ……、今日
ノ問題トカ、ソレカラ司法大臣ノ……
○藏園委員長 ソレニ關聯シタコトダ
ケラ願ヒマス

○原委員 關聯シタコトダケデス、
只今司法大臣ノ御説明ニ依ルト、此統

ル本年ノ九月一日マデニ國內法モ制定致サナケレバナラヌト云フ條約ニ相成ツテ居ルヤウナ御話デアリマシタガ、サウ云フコトデアリマスカ、念ノ爲ニソレヲ確メテ置キマス

○小山國務大臣 九月一日マデニ法律ヲ拵ヘテ置クト云フ意味デアルカト云フ御尋デスカ、先刻申シマシタノハ、國内法トシテ實施スル爲ニハ、法律案ヲ議會ノ協賛ヲ求メマシテ、サウシテ法律ヲ制定シテ置ク必要ガアル、内容ハ、法律案ガ條約ト同ジ内容ニナリマスカラ、其條約ノ御批准ヲ其後ニ奏請スル積リデアル、斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデス

○原委員 ヤハリドッヂデモ宜シイノデス、御説明ガ能ク明瞭致シマセヌガ、詰リ御批准ノ期間ハ、此條約文ニアルガ如ク、本年ノ九月一日マデニ御批准ト云フコトニ期間ガ置イテアルノデス、其期間中ニハ、ヤハリ國內法ヲ制定シナケレバナラナイ我國ガ義務ヲ負ウテ居ルノカドウカ、之ガ要點デアリマスガ、其法律案ヲ制定スルト云フノハ、ドウ云フ御意味デアリマスカ、結局國內法ヲ制定シテ置カナケレバナラヌ義務ヲ負ウテ居ルカドウカ、此問題デアリマシテ、其準備手續ノ問題デハナイ義務ニアリマス、若シ司法大臣ノ御考ノ

○小山國務大臣　度々申シマスルヤウニ、條約トシテハ、無論大權事項ナルニ依ッテ、御批准ヲ直チニ奏請シテ宜イ譯デアリマス、條約ノ内容ハ各自ノ領域内ニ之ヲ施行スルコトヲ約スト云フ、條約上ノ義務ト言ヘバ義務デアリマスガ、義務ヲ負ウテ居リマス、ソレデアリマスカラ、一面ニ於テハ國內法トシテ制定シ、一面ニ於テハ其國內法ト同一内容ヲ有スルコトニナル條約ノ御批准ヲ奏請スル、斯ウ云フ趣旨デアリマステナラバ、此條約ノ批准ニハ期限ガアル、ソレカラ此條約ニ依ッテ批准後デモ國內法ハ制定スル義務ヲ負ウテ居ルノデアッテ、其義務ヲ果サナケレバナラヌノデアルケレドモ、批准期間前ニ於テヤハリ國內法モ制定シテ置カナケレバナラヌト云フ、此條約ニ依ッテ我國ガ義務ヲ負ウテ居ルカドウカ、此點デアリマス

○長島政府委員　大臣ノ御説明ヲ補足シタイト思ヒマス、結局此條約ハ、聯閥理事國三箇國ヲ含ム七箇國ガ批准シタ時カラ効力ヲ生ズル譯デアリマス、効力ヲ生ズルト言ッテハ語弊ガアリマス、批准

スレバ條約トシテ成立シテ、ソレカラ
九十日經ツト當然其條約ガ效力ヲ生ズ
ルコトニナル、所ガ其條約ガ效力ヲ生
ズル爲ニハ、此條約デ以テ附屬書ト同
ジヤウナ國內法ヲ制定スル義務ガアリ
マスカラ、條約ガ成立スルマデニハ、此
方デ其法律ヲ制定シテ置カナケレバナ
ラヌノデス、詰リ七箇國ガ批准スルト、
當然三箇月目ニハ效力ヲ生ズルマデニハ、
ス、サウスルト附屬書ト同ジ法律ヲ實
施スル義務ヲ負ウテ居リマスカラ、九
十日デ條約ガ效力ヲ生ズルマデニハ、
此方デ法律ガ實施ヲ待ツテ居ナケレバ、
後カラ其法律ヲ作ルト云フ義務ヲ負ツ
テ居ルノデナクテ、效力ヲ生ズル前ニ
法律ガ出來テ居ラナケレバ工合ガ惡イ、
斯ウ云フコトニナルノデ、條約ガ出來
テ、其出來タ條約ニ付テ義務ヲ負フト
云フヨリハ、其準備ガ出來テ居ラナケ
レバイカヌ、準備ガ出來テ居テ、條約ガ
效力ヲ發スルヤウデナケレバナラヌト
云フノデアリマス

話ノ如ク、九月一日マデニ國內法ヲ制定シナケレバナラナイ所ノ義務ヲ負ウテ居ル、其條約ガ二年前ニ調印シテアル、幸ニ今臨時議會ガ本月茲ニ開ケテ居ルカラデアリマスケレド、是ガ臨時議會ガ開ケナケレバ、暮ノ議會ト云フコトニナルノデアリマスガ、此條約第一條ヲ、今アナタガ解釋スルヤウナ風デアルトスルナラバ、此臨時議會ガ開ケナカッタラ、一體政府ハドウスル積リデアッタデセウカ、是ハ後ニ私ハ尙ホ御尋ネスルノデスケレド、本會議デモ申シタ如ク、百箇條近クカラノ法律ヲ、モウ三日カ二日ヨリカナイ此期間ニ、此條約文ノ翻譯文ヲヤツト今日出サレタヤウナ次第デアリマスガ、ドウ云フ一體考デ政府ハ斯ウ云フ處置ヲ執ラル、ノデアルカ、是ハ非常ニ私ハ政府ハ國家ノ國內法制定ノ立法權ヲ弄ブモノト言ハレテモ過言デハナイト思フノデアリマス、事實ニ徴シテ……マア此位ニ止メテ置キマセウ、ソレヲ一つ承ッテ置キタイ

レバナラヌ、又他方ニ於テハ成ベク分
リ易イ文章ニシタイト云フノデ、非常
ニ是ハムヅカシイ事業デアツノデス、
其間ニ法制審議會ノ議ヲ經ル、委員會
ノ議ヲ經ルト云フ譯デスカラ、一昨年
ノ通常議會ニハドウシテモ出セナカッ
タノデス、九月一日デスカラ……ソレ
カラ去年ノ通常議會ニ出サウト思ッタ
ラバ、去年ハ解散ニナッタノデス、デス
カラドウシテモ臨時議會ニ出ザルヲ
得ナクナッタノデス、若シ臨時議會ガナ
小カットスレバ、是ハ不可抗力デスカ
ラ、サウスレバ國外的ニモ何等責任ヲ感
ズルコトハナイ譯ナノデスケレドモ、
臨時議會ガアレバ、ドウシテモ出サナ
イト云フト、責任上斯ウ云フ經緯デア
リマスカラ、其邊ノ所ハドウゾ御諒承
ヲ願ヒマス

レバナラヌヤウニ思フノデアリマスル
ガ、今日重大ナ條約締結ニ關シテノ樞密院ノ諮詢ト云フモノハ、政府ハ差控ヘテ置イテ、サウシテ先づ帝國議會ト云フ掲手ノ方カラ、立法事業デ國民ノ意思ニ依ツテ法律ヲ作ラシテ置イテ、結局帝國議會ノ協賛ヲ經タ法律ガ出來居ルト云フコトデ、平押シニ樞密院ノ方ニ諮詢ヲ奏請セラル、ト云タヤウナ、逆手ヲ用キラレルト云フコトニナレバ、結局帝國議會ハ法律制定ノ上ニ國民ニ對シテ非常ナ責任ヲ負ハサレルコトニナツテ、而モ吾々ハ此法律ニ付テハ、實際ニハ慎重審議ガ出來ナイ、斯云フヤウナ破目ニ陷リ、吾々ハ非常ナ迷惑ヲ被ルコトニ相成ルト思フノデアリマス、帝國議會ノ開院式ノ御詔勅ヲ見マシテモ、議員ニ對シテハ、慎重審議協贊ノ任ヲ竭セヨト云フ御言葉モ拜承致シテ居ル、政府ハ色々ナ點カラ、慎重審議ドコロデナク、モウ條約デ絡マッテ居ルカラ、盲目判ヲ押シテ、法制審議會モノ通ツテ居ルカラ、是モモウ直グ協賛ヲセヨ、斯ウ云フ立法府ニ對スル御命令ノヤウニ思フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付テハ、一體政府ハ如何ニ帝國議會ヲ見テ居ラレルカ、此點ダケデ私、後ハ留保シテ置キマス

ル
重
要
ナ
ル
點
デ
ア
ル
ト
考
ヘ
ル
ノ
デ
ア
リ
マ
ス
、
一
體
條
約
ト
法
律
ト
ノ
關
係
デ
ア
リ
マ
ス
ル
ガ
、
或
ル
條
約
ガ
國
內
法
ニ
關
係
ヲ
持
チ
マ
シ
タ
場
合
ニ
ハ
、
サ
ウ
云
フ
國
內
法
ノ
結
ト
控
檢
ノ
立
法
事
項
ニ
關
係
シ
テ
居
ル
コ
ト
ガ
條
約
ニ
アル
場
合
ニ
ハ
、
何
時
モ
斯
ウ
云
フ
問
題
ガ
起
ル
、
先
程
モ
原
君
ガ
言
ハ
レ
タ
通
リ
、
今
後
國
際
的
ニ
色
々
ナ
統
一
的
ノ
事
業
ガ
起
ル
デ
ア
ラ
ウ
、
又
現
ニ
起
リ
ツ
、
アル
、
又
ソ
レ
ガ
現
在
ノ
風
潮
デ
ア
リ
マ
ス
ル
ガ
、
サ
ウ
云
フ
ヤ
ウ
ナ
場
合
ニ
、
此
問
題
ハ
ド
ウ
ス
ル
ノ
デ
ア
ル
カ
、
是
ハ
至
極
御
尤
ナ
御
心
配
デ
ア
リ
マ
ス
、
原
サン
ノ
御
意
見
ニ
依
リ
マ
シ
テ
ハ
、
先
づ
立
法
事
項
ヲ
含
ン
デ
居
ル
此
條
約
ト
云
フ
モ
ノ
ヲ
、
條
約
大
權
ニ
依
テ
公
布
ス
ル
、
即
チ
其
條
約
ノ
實
施
ニ
於
テ
—
サ
ウ
シ
テ
條
約
ト
シ
テ
ハ
國
家
間
ヲ
縛
リ
、
又
其
內
容
ヲ
以
テ
國
民
ヲ
縛
リ
、
詰
リ
國
民
ニ
對
ス
ル
羈
束
力
ヲ
持
タ
セ
ル
、
此
點
ハ
餘
程
難
カ
シ
イ
問
題
ナ
ノ
デ
ス
、
即
チ
世
ノ
中
ニ
ハ
、
實
際
ニ
モ
又
學
說
ニ
モ
能
ク
申
サ
レ
ル
通
リ
、
所
謂
條
約
即
法
律
、
其
點
デ
ア
リ
マ
ス
ル
ガ
、
條
約
ガ
即
チ
法
律
デ
ア
ル
ヤ
否
ヤ
ト
云
フ
コ
ト
ニ
就
テ
、
從
來
政
府
ガ
執
テ
居
リ
マ
ス
ル
實
例
ニ
於
キ
マ
シ
テ
モ
、
是
ハ
必
ズ
シ
モ
一
致
シ
テ
居
ナ
イ
ノ
デ
ア
リ
マ
ス
、
原
君
モ
夙
ニ
御
承
知
ノ
コ
ト
、
考
ヘ
マ
ス
ル
ガ
、
條
約
ガ
即
チ
法
律
ト
シ
テ
行
ハ
レ
テ
居
ル
場
合
ニ
ハ
、
從
來
ノ
條
約
ヲ
見
マ
ス
ト

ハ其條約ヲ實施スル、而シテ其條約ノ
内容ニ合セル爲ニ國內法ヲ改正シテ行
クト云フ例モ執ツテ居リマス、現ニ原君
ハ御關係デアツタト思ヒマスルケレド
モ、昨年デアリマシタカ著作権ノ條約
ト云フモノデ、著作権ニ非常ナ新シイ
コトヲ加ヘタ、所謂羅馬ノ著作権法一
千九百八年ノ伯林ニ於ケル著作権條
約ヲ、爾來世界ノ變遷ニ依リマシテ非
常ニ手ヲ入レマシタ、此羅馬ノ著作権
條約ニ關シテモ、日本ノ著作権ト合ハ
ナイ點ガアルガ故ニ、確カ昨年デアリ
マシタカ、著作権法ニ大分手ヲ入レマ
シテ、然ル後ニ羅馬ノ著作権法ヲ御批
准ニナシタト云フコトニナツテ居ル、其
他必ズシモ是ハ法律バカリデハアリマ
セヌガ、或ル事項ニ付テハ命令デ以テ
或ル規定ヲ設ケテ置イテ、ソレガ即チ
條約ノ公布サレタル場合ニ實施スル、
即チ後ニ條約ノ批准ガ出來ルト云フヤ
ウナ場合ガアルノデアリマス、茲ニ申
上ゲル手形法モ、此統一法ノ内容ガ國
内法ニ合ハヌト云フト、條約ヲ實施ス
ルコトガ出來ヌ、事實實施シテモ、ソ
レヲ國內法トシテドウ云フ風ニ效力ヲ
持タセルカト云フコトハ、先程申シマ
シタ點ニ問題ヲ生ジマスルガ故ニ、國
内ノ法制ト條約トガ一致シテ行クト云
フ風ニシテ行キタイト云フノデアリマ
シテ、此手形統一ノ法ハ、既ニ二年有

○ 松田政府委員 権密院デアリマスガ、
○ 原委員 権密院トノ關係ハ如何デス
アリマス、大體ソレデ……
張ガ通ツテ居ルノデアリマスカラ、其内容ニ於キマシテハ大變革ヲ此際持來ス
ノデモナイト云フ風ニ考ヘテ居ルノデ
九百十二年以來研究サレ、若クハ其以前ニ遡リマスト千九百十年以來ノ問題
デアリマシテ、今回ノ此手形統一法ガ
討議サレル時ニモ、日本カラ十分ナル
訓令ヲ興ヘマシテ、而シテ日本ノ主張
ト云フモノハ大部分通ツテ居ッテ、日本
ノ主張ガ殆ド採用サレテ居ルノデアリ
マス、決シテ他人ガ作ツテ、ソレニ日本
ガ入ルト云フノデハナイ、日本ハ即チ
其條約ノ構成者ノ一人デアル、謂ハ
日本ノ意思ガ大部分之ニ含マレテ居ル、
同時ニ又成程百箇條以上アルト仰シヤ
イマスガ、併シ一々内容ヲ現行ノ手形
法ニ照合セテ見ルト、大シタ變革ハナ
イ、又現行法ニ付テノ缺點ト云フモノ
ガ、ドウ云フ點ヲ改正シタラバ進歩シ
タモノニナルカ、又日本ノ實情ニ合フ
カト云フヤウナ點モ、ヤハリ日本ノ主

是ハ只今申シマシタ如ク、條約ヲ批准シマスル時ニハ、其條約ノ内容ガ國内法ニ合ツテ居ナイト云フト、條約ヲ批准スルコトガ出來ナイ、デスカラ總テノ條約ト云フモノハ、國內法ニ於テ一方ニ規定ガアルト云フコトデナイト云フト、條約ヲ批准致シマシテモ實施ガ出来ナイト云フコトニナル、ソレハ先程申シマシタ著作権ノ條約ノ件モサウデアリマスルシ、又幾ラモ例ハアルノデアリマスアリマス、決シテソレバカリノ問題デナイト云フコトニナルノデアリマス。

○小山國務大臣 チヨット私モ附加ヘテ申上ゲテ置キタイノデアリマスガ、原委員カラ逆手デアルトカ、搦手カラト云フ御話ガアツタノデアリマスガ、政府ハサウ云フ考ハ毛頭ナイノデアリマスシテ、若シ原委員ノ御話ノヤウニ、御批準ヲ奏請シテ置キマシテ、サウシテ條約ガ確定シマシテカラ議會ヘ出スト云フノデアリマスト、其時コソ却テ議會ハ審議權ヲ行使スルコトガ出來ナカル、今ナラバ御存分ニ御意見ヲ御述ニナッテ、御意見ヲ御出シニナルコトモ出來、又修正モ爲シ得ラレル、ソコヲツ能ク御考ヲ願ツテ、何モサウ策略的ニ無理押付ケニスルトカ云フ考ヲ以テ持出シタ譯デハナイ、ソレヲ申上ゲテ置キマス

○中野委員 私ガ御尋ヲ致サントスル點ハ、原君ガ本會ニ於テ、又本日只今或ル程度迄御質問ニナツタノデアリマスガ、今司法大臣ノ御言葉ヲチヨツト私ハ耳ニ致シマシテ、非常ニ私ノ質問セントスル趣旨ガ變ツタカモ知レマセヌガ、本會ニ於テモ御述ニナツテ居ルカモ知レマセヌガ、此案ハ條約ヲ基礎トシタ案デアルカラ、殆ド極端ニ言ヘバ假名一字動カサレテモ困ルト云フヤウナ、貴族院ニ於テモサウ云フ答辯ガアッタトモ思フ、併シ今司法大臣ノ御言葉ニ依ルト、今ナラバ修正ノ意見モ十分出シテ宜シイト云フコトデアリマスルガ、如何デスカ、ソレヲチヨット御伺致シタ

○中野委員 マダ吾々ハ、表面的ニハ
條約ト云フモノ、存在ヲ知ラナイノデ
アリマスカラ、條約ニ如何ナルコトガ
シテアリマスカ、本日之ヲ戴キマシタ
ガ、是ハ公式ノモノデハ無論ナイノデ
アリマス、又將來批准シテ公布セラル
ルコトアルベキ條約ヲ假想シテ、此本
案ヲ審議スルト云フヤウナ立場ニアル
ヤウニ思ハレル、而モソレガ一字一句
訂正ヲサレテハ困ルト云フコトニナリ
マスト、法律的ニ效力ヲ發生シタ條約
ガ既ニアルコトナラバ、吾ガハドウモ
折角條約ガ出來テ居ルノデアルカラ、
是ハ大權事項デアルガ、マア條約ヲ有
效ニシナケレバナラヌト云フ意味ニ於
テ、マダ我慢スル點ガアルガ、マダ條約ノ
約ガ批准モサレナクシテ、國民ニハ公
布モサレテ居ナイカラ、吾々ハ條約ノ
アルコトモ知ラナイノデアリマス、此
場合ニ於テ、尙ホ此原案ヲ修正スルコ
トモ自由ダカラ、シテモ宜イガ、ソレ
デハ條約ガ御批准ニナルカドウカ分ラ
ヌト云フヤウナコトデアルト、結局假

○中野委員 只今ノコトハ法理的ニ御置イテ、サウシテソレニ依ツテ、只今出テ居ル原案ニ對シテ盲從シナケレバナラヌト云フノハ、我ガ帝國議會ノ立法參與權ト云フモノ、立場ハ如何デアリマセウカ、吾々ハ斯ノ如キコトガ過去ニハ知リマセスガ、將來無論重ネラレルヤウナ場合ガアツテハ甚ダ惡例ヲ作ルモノデアルト考ヘテ居リマス、之ニ對シテ政府ノ御意見ハ如何デアリマス

答ニナラナイデ、實際問題カラ言ヘバ
是ハ單純ナ法理ノ研究討論會デハアリ
マセヌカラ、實際的ニ如實ニ法律ヲ作
ル場合デアリマスカラ、無論形式ヲ踏
ンダ討論的ノコトデハナイノデスカラ、
貴族院ニ御説明ニナツテ居ルコトハ速
記録ヲ見テ居リマスカラ、ソレデ承^テ
置クノデアリマスガ、ソレハ單ニ吾々
ノ立場ダケカラ申セバ、自由ニ改廢シ
テ宜シイカモ知レマセヌ、多數デ決メ置
ラレ、バ仕方ガナイガ、ソレデハ將來
發生セントスル條約ガ目ノ前ニアルコ
トガ事實ナノデアルカラ、是ハ效力ヲ
發生セシムルコトガ不可能デアルト云
ヒマス、其點ハ衆議院ハ協賛權ヲ持^テ
居ルノデアルカラ自由ニ直シテモ宜イ
カナケレバナラヌ重要ナ點デアルト思
フコトガアル、其以上ハ是ハ考慮ニ置
トガソレデハ條約ハ不成立ニナルカモ
知レナイ、斯ウ言^テ吾々ヲ所謂窮地ニ
陥レルヤウナヤリ方——答辯デアルト
考ヘマスガ、寧ロスウ云フ譯ダカラ、
ドウカ一ツ我慢シテ贊成シテ貰ヒタイ
ト言ハレタ方ガ却テ男ラシクナイカ、
勝手ニ直スナラバ直シテ宜シイガ、ソ
レデハ困ルコトヲ知^テ居ルダラウ、ト
云フノデハ餘リニ吾々ニ對シテ不親切
ナ答辯ダラウト思ヒマス、ソレハ却テ
アツサリ謝^ツタラ宜シイト思ヒマス、何
故カト言ヘバ、外ノ例ヲ引キマシタガ、

大權事項ヲ法律ニスル時ハ非常ニ困難ニ陥ル、立法事項ガ大權事項ニ立至ラ
ナケレバナラヌトナルト、已ムヲ得ナ
イ、協贊シナケレバナリマセヌガ、斯
ノ如キ浩瀚ナ法律ヲ作ルベク、一字一
句モ改廢ヲ許サナイト云フヤウナ條約
ヲ締結シテ居ルカモ知レナイト云フヤ
ウナモノヲ提出スルト云フコトハ、是
ハ非常ナ重大問題デアルト考ヘマス、
ソレハ國際關係デ已ムヲ得ナカッタカ
モ知レナイガ、詰リ協贊權ヲ政府ハ強
要シテ居ル、大權ニ基イテ條約ヲ締結
シテ置イテ、之ニ依ツテ國內法ノ制定ヲ
帝國議會ニ強要シテ居ル、ソレナラ其
様ニモウ少シ理解スルヤウニ御答ニ
ナツタラ適當ダラウト思ヒマス

譯文ハ政府デ譯セラレタノニ違ナイガ、議員ガ自分デ譯シテモ宜シイノデセウカ、大分譯ニ付テ異議ガアル、例ヘバ保證ト云フ意味ト擔保ト云フ意味ト、詐欺ト云フノト、惡意ト云フノガアル、色々譯ノ仕方ガ違ツテ居ルノガアルヤウデアリマスガ、是ハヤハリ苟モ之ヲ通過スル以上ハ、此譯モ直シテハ工合ガ惡イノデセウカ、ソレモ一ツ……

○長島政府委員 ソレハ相當皆根據ガアツテ、擔保トヤツタリ、或ハ保證トヤツタリ、詐欺トヤツタリ、惡意トヤツタノハ、皆元ノ文字ガ違ツテ居ツテ、相當根據ガアツテヤツタコトデスカラ——速記ハ一寸止シテ戴イテモ結構デス

○藏園委員長 速記ヲ一寸止メテ下サイ

〔速記中止〕

二月一日ヲ以テ條約ガ效力ヲ發生シ、
同時ニ本案ガ國內法トシテ施行セラル
ル時期ニナルヤウニ思ハレマスガ、サ
ウ云フ御見込デゴザイマスカ、其處ノ
所ヲ一寸……

居リマセヌケレドモ、假譯ト云フモノ
ハズツト前カラ公表サレテ居リマス、ソ
レモ實際實業家達ガ研究シテ居ッタカ
ドウカ分リマセヌガ、公表ダケハサレ
テ居ッタ譯デアリマス、一方ニ於テ手形
ノ様式ハ、御承知ノ通リ印刷デ刷リマ
スシ、手形ノ流通上ノ效力ニ付テハ大
シタ差異ハナイ、全然同ジデアリマス、
唯引受ノ爲ニスル償還請求トカ、引受
呈示ニ猶豫ガアルトカ云フヤウナ所ガ
違フダケデ、他ノ點ニ於テハ流通上ノ
権利義務ニ付テハ殆ド是ト云フテ、取
上ゲテ云フ程ノ違ヒハナイヤウニ思ヒ
マスカラ、實施ノ上ニハ大シタ支障ハ
ナイト私ハ考ヘテ居リマス

○中野委員 小切手ニ關スル統一法ハ
凡ソイツ頃出來ル御見込デアリマスカ
○長島政府委員 是ハ此暮ノ通常議會
ニハドウシテモ出サナケレバナリマセ
ヌ、實ハ來年ノ九月一日ガ矢張批准期
間ニナツテ居リマスカラ……

○中野委員 條約ハ……

○長島政府委員 條約ハ調印致シマシ
タ……

○中野委員 締盟國デ本條約ニ批准ヲ
與ヘテ居ル國ガドノ位アリマスカ、而
シテ今年ノ八月三十一日迄ニ豫定ノ批
准ヲ終ル見込ガ立ッテ居リマスカドウ

ニ到達シタ調査ニ依リマスト、批准シテ居ル國ハ實ハ希臘ダケデアリマス、佛蘭西ハ六月初メニ開カレル議會デ改正法ガ審議セラレテ、條約ノ批准ヲ見ル見込ダト云フコトニナツテ居リマス、獨逸ハ改正法案ヲ議會ニ提出スル準備トシテ、聯邦參議院ノ意見ヲ聽カナケレバナラナイ、其意見ハ可決ニナツテ、今提出ノ準備中ダト云フコトデアリマス、伊太利ハ改正草案ハ二月中ニ出来上ツテ、條約ノ批准ハ五月中ニ完了ノ豫定トアリマス、マダ通知ガ來テ居リマセヌガ、豫定ニハナツテ居リマス、其外瑞西ハ本年ノ六月ノ議會ニ提出ノ豫定デアリマス、大體大キナ國ハサウ云フ風ニナツテ居リマス

フズット先へ延バシテ、條約ノ出來ル迄
 實施期間ヲ延バシマスカ、或ハヤハリ
 ハズ國內法トシテ出シテシマフカト云
 フコトハ、將來ノ問題ニナリマスガ、マ
 ア不慣レノ法律ダト云フ方カラ言ヘ
 バ、暫ク待ッタ方ガ宜イカトモ考ヘマス
 ○中野委員 私共ノ考ニ依リマスル
 ニ達スペキ聯盟國ノ批准ガ或ハ得ラレ
 ナイカト考ヘル、サウスルト此浩瀚ナ
 法律ヲ、會期満了ノ間際ニ御提案ニナッ
 テ、而モ內容ニ立入ッテ審議スルコトモ
 出來ナイデ、無理ニ之ヲ擇へ上ゲテ、而
 モ實施期ガ當分餘裕ガアルト云フコト
 デハ、甚ダ吾々ハ國民ニ對シテ不親切
 ナ審議ヲ致シタコトニナリハシナイ
 カト考ヘル、政府ハ此場合モウ少シ慎
 重ニ審議スル餘裕ヲ御與ヘニナルコト
 ハ出來マセヌカ

○長島政府委員 ソレハヤハリ見込ノ
 問題デゴザイマスケドモ、我國トシ
 テハ、調印シタ以上ハ今年ノ九月一日
 迄ニ批准シタ方ガ宜クハナイカ、殊ニ
 聯盟理事國ノ三箇國ガ批准シナイト成
 立タナイノデアリマス、而シテ其理事
 國ハ佛蘭西・獨逸・伊太利ト日本デアリ
 マスカラ、日本トモウ一ツ何處カノ國
 ガ批准シナケレバ效力ヲ生ジナイ、即
 チ其效力ヲ生ジナイコトニ付テ、日本

ガ責任ヲ負ハナケレバナラヌ、責任ヲ
 負フト云フテモ何デモナイト云ヘバ
 御斷リシテ置キマスガ、何デモ英國デ
 ハ、慣習ガ基礎ニナッテ居リマシテ、其
 ノレ迄デアリマスガ、國際法關係カラ
 云ツテモ、ソレハ面白クナイ結果ニナル
 ト思ヒマス、サウ云フ譯デ一つ御諒解
 ラト云フコトニ御諒解ヲ願ヒタイ
 ○藏園委員長 次ハ通告順ニ依リマシ
 テ清瀬一郎君

○清瀬委員 先刻休憩ノ時ニ、非公式
 ニ政府ノ方ニモ伺タノデアリマスガ、
 此條約ニ調印ヲ致シテ居ル國ヲ調ベテ
 見マスト「アルファベット」順デ「チャ
 マンライヒ」カラズット二十數箇國アリ
 マスガ、其中デ亞米利加ハ本來國際聯
 盟外デアリマスカラ餘儀ナイコト、致
 シマシテ、我ガ日本ニ一番關係ノ深イ
 ハ英國法ニ近イ所ガアリマス、事情ハ
 英吉利ガ關與致シテ居リマセヌ、又國
 サウ云フ譯デアリマス

○長島政府委員 ソレカラ恐クハ英吉利デハ這入ラナ
 ルノデアリマスガ、今長島政府委員ノ
 御答ニ、英國ヲ除イテ日本ノ外ニモウ
 一つ批准シナカッタラ、此條約ハ不成立
 デアルト、斯ウ仰シャルノデアリマス
 ガ、英國ガ之ニ入ラナカッタ何カ來歷ガ
 アリマセウカ、ドウ云フ譯デ聯盟理事
 國デアリナガラ、英國ガ之ニ入ッテ居ラ
 ヌノデアリマスカ

○長島政府委員 ソレハ貴族院デモ申
 上ゲタノデアリマスガ、私ハ能ク英國
 国米法系ト、日本ト獨逸法系ト云フモ
 ニ別レマスガ、日本ガ這入ラナケレバ、

ノ手形ヲ存ジマセヌカラ、是ハ前以テ
 ノガ出來マシテ、三ツノ對立シタ關係
 ニナリマスガ、英米ノ取引ト云フコト
 ハ、慣習法ヲ編纂シタ成文法ガアルサウデ
 云ツテモ、ソレハ面白クナイ結果ニナル
 慣習法ヲ編纂シタモノガ法律ニナッ
 ス、サウ云フ譯デ英國トシテハ、外部カ
 ラト云フコトニ御諒解ヲ願ヒマスケ
 相當分ラセル方法ハ取ッテアルノダカ
 ル、慣習法ヲ編纂シタモノガ法律ニナッ
 ス、サウ云フ譯デ英國トシテハ、外部カ
 ラル、結局慣習ガ先ニ出來テ法律ガ
 出來ルノダカラ、外部カラ來タ統一法
 テ居ル、將來手形法ト云フモノニ第一步ヲ進メ
 ルコトニナルト思ヒマス、モウ一ツハ
 大體統一法ノ內容ガ惡クナイカラ、トッ
 チニシテモ是ハ這入ッテ居ッタ方ガ宜イ
 ト云フヤウナコトカラ、大體御諮詢ヲ
 奏請シタラドウカト云フ考ヲ私共ハ
 持ッテ居リマス

○清瀬委員 今ノ御答ノ様子カラ拜承
 シマシテ、又吾々新聞雜誌、社會上聞及
 ブンデ居ル所カラシマシテモ、結局英國
 ハ這入ッテ來ナイト云フコトハ現在ノ
 ミナラズ、將來モ斷ジテ宜カラウト思
 ヒマス、支那モ矢張國際聯盟ニ這入ッテ
 隨分暴レテ居ルノデアリマスガ、是ハ
 ドウ云フ譯デアリマスカ、ソレカラ同
 キマスガ、印度、露西亞、是ハドウ云フ
 見込デアリマスカ

○長島政府委員 ドウモ此支那ヤ露西
 亞ガ這入ッテ來ナカッタノハドウ云フ譯
 カ存ジマセヌガ、恐ラク經費カ何カノ
 都合カト思ヒマスガ、露西亞ハ經費ノ

都合ト云フコトモアリマスマイガ、一寸其點ハ調ベテ居リマセヌ

○清瀬委員 國際聯盟ハ植民地モ別ニ
顏ヲ出スノデスカ、印度アタリモ莫吉
利ノ方ニ這入ツテ居リマスカ

○長島政府委員 英國ノ植民地ハ確力
這入ツデ居ラヌト思ヒマス、ソレカラ露
西亞ハ大戰後——サウスルト何故這入

ラナイカト云フコトニナッテ來マスガ、
露西亞ハ矢張事實上ニ於テ海牙條約ト
同ジャウナ條約ヲ作ツテ居リマス

○清瀬
委員 外國ノ便、不便、ソレカテ
世界ノ人類ノ發達ノ上カラ、ドウト云
フコトハ別ト致シマシテ、是ハ遺憾ナ

日本ガ之ニ參加スル實益ガドノ程度ニ
アリマスカ、隣リノ國ハ確ニ這入ッテ居
ラス、臣米利加ニ這入ラサ名、露西亞モ

アラブ半島、アフリカ、南ヨーロッパ、中東、南アジア、東南アジア、オセania、オーストラリア、南極大陸

ウナ、殆ド學生ガ地理デ之ヲ知ツテ居ルモノバカリデアリマスガ、長島君ハ長ク司法官ノ御生活ヲナサイマシタガ、

何カ實際ノ手形取引上、手形裁判上、之ニ這入ラヌト不利益デアルノデアリマスカ

○長島政府委員 私モ多少銀行ノ方ニ
モ居リマシタガ、實際ニ於テハ御承知
ノ通り、成ル程米國ノ手形ガ多イノデ

アリマスガ、偶ニハ佛蘭西ノ手形モ參
枚ニ一枚位ノ割デ來タヤウニ思ヒマ
ス、ノミナラズ之ガ大體英法ノ方ニモ
近クナルノデアリマスカラ、其邊カラ
申マシテモ、英國ノ手形ニ近クナル、即
チ英國トノ取引ニ於テモ、統一法ノ方
ガ、從來ヨリ以上ノ便宜ガアルト云フ
コト、ソレカラ先ニ申シマシタヤウニ、
二種類ニ分レルト云フコト、ソレ自身
ダケデモ、間接ニハ便利ニナルヤウニ
私ハ思ツテ居リマス、ソレハ英米ガ入ッ
タ方ガ非常ニ宜イコトハ、勿論デアリ
マス

辯護士ダケデモ、三千人程居リマスガ、未ダ本法ニ付テ、何人モ研究ヲ盡シテ居リマセヌシ、裁判官モ數千人御出デニナリマスガ、本法ノ研究會モオヤリニ

ナ・タコトガナイヤウニ存ジマスソレ
デ以テ本年中ニ、之ガ施行サレルト云
フコトニナレバ、私ハ非常ナ混亂ヲ致
ス、ゾアリアバ、ゾク云フ三段ノ以テ

スノテアリハスレウ云々手段元以テ
此混亂ヲ御防ギニナルデアラウカ、ソ
コラノ見込ヲ先ヅ大體論トシテ、一ツ

○長島政府委員　是ハモウ新聞ナドモ
モ、五六種以上ノ手形統一法ノ講義、著
書ナドガ、既ニ出テ居ルノデアリマス、

是ハ學者ノ問デハ先ニ申上ゲタヤウニ、海牙ノ統一條約以來ノ問題デアリマスカラ、相當研究サレテ居ルモノト

見エマシテ、モウ此本ノ發賣ノ廣告が
出テ居ル位デアリマスカラ、實業界ノ廣
方面、詰リ商賣人ヤ何カノ間デハ、ドウ

カト思ヒマスガ、マダ本案ガ出ナイ前ニ、著書ガ出テ居ルヤウナコトデアリマスカラ、學者ノ間ヤ一般ノ間ニハ、相

當分ツテ居ルノデハナイカト思ヒマス、
ソレカラ尙ホ手形ニ付テハ、御承知ノ
ヤウニ様式ガ、何レ出來ルコト、存ジ

マスカラ、手形ノ振出ニ無效ナドト云
フ問題ハ起リマセヌ、流通シテカラ後
ノ権利關係ノコトナドハ、是ハ後トデ
内容ヲ申上ゲレバ御分リニナル——モ

○長島政府委員	小切手統一條約法ハ マスカ
○清瀬委員	條約ノ方デスカ
○長島政府委員	サウデアリマス
○清瀬委員	何故ソレヲオヤリニナリ
○長島政府委員	ナリマス、此次ノ通 切手法ヲ提案スル積リデアリマス
○長島政府委員	ナリマス、此年ノ十二月頃 迄ハサウ云フコトニナルノデアリマス
○清瀬委員	來年ノ十二月ニナレバ小 切手法ハ改正ニナリマスカ
○長島政府委員	ナリマス、此年ノ十二月頃 迄ハサウ云フコトニナルノデアリマス
○長島政府委員	サウスルト二通リノ手形 法ガ、當分日本ニ流通スル譯デスカ
○長島政府委員	詰リ來年ノ十二月頃 迄ハサウ云フコトニナルノデアリマス
○清瀬委員	來年ノ十二月ニナレバ小 切手法ハ改正ニナリマスカ
○長島政府委員	ナリマス、此年ノ十二月頃 迄ハサウ云フコトニナルノデアリマス
○長島政府委員	ナコトハナイト思ヒマス、尙ホ併シ私 共ハ、出來ルダケ何トカ一般人ニ之ヲ周 知セシヌル方法ヲ講ジタイ、或ハ研究 會ヲ設ケルトカ、或ハ書イタモノデヤ ルトカ、サウ云フヤウナコトハ考ヘテ 居リマス
○清瀬委員	小切手ノ規則ハ殘ルノデ スカ、サウスルト小切手ニ準用サルベ キ爲替手形ノ規則モ、皆殘ル、是ハ廢シ テ了フ譯ニハ行カヌデセウ
○長島政府委員	其コトハ附則ニ書イ テ居リマス

去年ノ三月ニ調印ニナリマシタ、一年
程調印ガ遲レテ居リマス、ソレハ丁度
手形統一條約ノ會議ノ時ニ、小切手モ
一緒ニ審議サレタノデアリマスガ、小
切手ダケハ少シ議論ガアルカラ審議ヲ
後廻シニスルト云フコトデ、ソレダケ
残リマシタ

○清瀬委員 其事モ私ハウス／＼承知
ヲ致シテ居リマスルガ、私ノ伺ハント
スル所ハ、日本ハ外ノ國ト違テ小切手
ヲ手形ノ一ツトシテ居ルノデアリマ
ス、デアリマスルカラ、此案ノ内容ニ
付テハ此月曜日ニ又申上グマスガ、日
本デ手形法ト言ヘバ小切手モ入ッタ法
律デアリマスカラ、其時ニ一緒ニヤッ
テモ一向遅クハアルマイ、斯ウ云フ風
ニ考ヘテ居ルノデアリマスガ、如何デ
セウカ

○長島政府委員 ソレハ批准ノ關係上
斯ウ云フコトニナツタノデアリマスガ、
併シ清瀬先生ノ仰シャルヤウニ、日本
ノ國ノ立場ヲ考ヘテ、不便ナモノハ批
准シナイ方ガ宜カラウト云フコトニナ
リマスガ、サウナルト大シテ不便ガナ
ケレバ、今年ノ九月一日迄ニ其條約ヲ
成立ニ導キタイト云フコトニナルノデ
アリマス

○清瀬委員 此條約ノ成立デアリマス
ルガ、良イモノナラバ外ノ三國ガ署名
シマセウ、其三國ノ署名スルダラウト

思フノハ、獨逸、佛蘭西、伊太利デ、是ノ後ニ日本ガクッ付イテ行ケバ「アクセサリー」ト言ヒマスカ「アクセッス」シテ行ケバ、宜イ譯デアリマスカラシテ、私ハ假令此案ガ良イモノニシマシテモ、民間衆智ノ機關ニ諮ヒ、又小切手トモ一緒ニスル餘裕ダケハ置イタガ宜イノデハナイカト思ヒマス、餘リ無暗ニ急ガヌデモ宜イ、是ハ貴族院モサルコトデアリマスルガ、衆議院議員ガ選舉サレテ、一人ノ選舉ニモ萬人ノ投票ヲ得テ居ルノデアリマスルカラ、ドウモ此三日間デヤツテシマフト云フコトハ、如何ニモ不親切ナ感ヲ懷クノデアリマス、尙ホ内容ニ付テハ月曜日ニ私ハ申上ゲル積リデアリマス

得テ、サウシテ議會ニ御臨ミニナツタノ
デアルカト云フコトヲ御伺致シマス
○長島政府委員 商業會議所、手形交
換所、ソレカラ銀行等ノ意見ヲ徵シマ
シテ、サウシテ條約調印ノ際ニ此方カ
ラ修正意見ヲ出シ、ソレガ容レラレテ
居ルノモ隨分アリマス、中ニハ釋明ヲ
求メテ、此方ノ考ヘル通リダト云フ答
テ得テ居ルモノモ澤山ニアルノデアリ
マス

○内藤委員 是ハドウナルカ分リマセ
ヌガ、假リニ御批准ニナツタ場合ニ、議
會ヲ通過致シマシタ後ニ惡イ所ガアツ
タ時ニハ、改正シナケレバナリマセヌ
ガ、其時ニハ我國トシテ自ラ進ンデ聯
盟ニ御訴ヘニナル御考デアリマスカ、
矢張リ以前ノ如ク、先方カラ仕掛けル
ノヲ待ッテ追隨シテ行ク御考デアリマ
スカ、其御覺悟ヲ伺ヒタインデアリマ
ス

○長島政府委員 何處ノ國ダカ條約ヲ
改正スル提案ガ、或期限ガ經ツト出來
ルヤウニナツテ居ルヤウデアリマスガ、
無論實際上不都合ガ生ズルヤウナ場合
ニハ、提案ハ私ノ方シテハ、シテ戴ク
リマスガ、無論外務省トシテモ異存ハ
ナイダラウト思ヒマス

○松田政府委員 只今ノ内藤君ノ御尋
ニ對シテ、一寸附加ヘテ申上グマス、此

條約ハ、先づ這入^タ以上ハ二年間ハ實
施シナケレバナラヌ、ソレデ若シ二年
間經^ツテ後、何カ改正ヲ加ヘタイ、斯ウ
云フ點ガ不便デアルト云フコトニナリ
マスト、一定數ノ國カラ聯盟ノ事務總
長ニ申出マシテ、一定數ノ國ノ意見ヲ
求メマシテ、サウシテ更ニ會議ヲ開ク
ト云フヤウナコトヲ見込ンデ居ルノデ
アリマス

第五類第十號 手形法案(政府提出、貴族院送付)委員會議錄 第二回 昭和七年六月十一日

一三一

昭和七年六月十一日印刷

昭和七年六月十二日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社印刷所